

地方
出版

情報誌

アクセス

| | |
|------|----------------------|
| 毎月1回 | 1日発行 |
| 購読料 | 定価 150円 (本体 143円) |
| 年間 | 1,500円(税込み) |
| 振替 | 00120-0-19017 |

発行所 (株)地方・小出版流通センター
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

大阪・北船場に今年9月オープン!

心理と福祉の専門書店「新元社書林」開店まで

文・加藤康雄

創元社の子会社である「新元社」が、リアル書店をはじめようと決めたのは、今年の2月のことでした。新元社は平成13年4月、心理・福祉分野の学会や研修会での書籍展示販売を中心とした関連事業を行う会社として設立いたしました。

「情報革命」という大きなうねりの中で、便利で豊かな「モノ社会」が形成されましたが、現代人は意外に幸福感を持ち得ていません。そうした社会の中で、心理と福祉分野研究への期待や要求はますます増加するものと考え、大阪を拠点として主に近畿地区での専門書販売をはじめたわけです。

読者、専門家の要望に添えて

6年あまり学会会場などで出店販売する中で、専門家の方から「お店はないの?」「会場に陳列されているような本は、どこへ行けば買えるの?」といった質問を受けることが多くなりました。このような要望にいつか応えたい、いつか専門家の方々に喜んでいただけるリアルショップを開店したい……という思いが徐々に高まっていきました。「店」を持たずに無店舗販売をしてきたことからの渴望があったのかもしれませんが。

ちょうどその頃、親会社の「創元社」の本社ビル(大阪市中央区。6階建て)が偶然にも1フロア(25坪)空室になっていました。そこで早速社内で話し合い、幸い1階の路面に面したフロアが使えることになりました。創元社ビルは、大阪市営地下鉄・御堂筋線の本町駅から徒歩4分ほど、大阪のビジネス街に位置します。通りを隔てて、真向かいには「コンビニ」があり、通勤

時間帯の朝と夕、昼休みはビジネスマンで賑わう場所です。

こうして、最初に店舗の場所だけが決まりました。それまで6年間、新元社の事務所は東大阪市にありましたが、これを期に事務所も店舗の一部に併設することにしました。早くも3月



店内風景。20坪に「心理学」「福祉」とも各3000冊の構成とし、専門書と専門雑誌、関係雑貨のみの商品展開

30日には店舗への引越しを済ませ、実際に店舗に利用する20坪ほどを残して、残りのスペースに事務机や椅子を並べました。4月に入ってすぐに店舗開店準備の会議を開きました。スタッフは私を含め男性3名と女性1名の計4名。書店経験者はいたものの、新規開店の経験はなく、ほとんど素人ばかりの集団でした。事務所仕様の造りを店舗仕様にするのにどれくらいの費用が必要なのか? 20坪の面積に何冊の本が陳列できるのか? 商品の仕入れ代金はいかほどか? 書棚以外に必要な備品はなにか? 店舗スタッフは最低何人必要か……? 疑問が山ほど噴出してきました。これまで30年以上も出版業界で仕事をしてきたのに、小売現場の実務は何もわかっていないことを

痛感し、自らの不明を恥じるばかりでした。何はともあれ、ゴールだけは決めておこうということで、無鉄砲にも開店予定を9月上旬としました。

談話スペースを設け、交流の場に

最初に相談に行きましたのは、6年間お取引いただいている大阪屋さんです。上高牧役員にお会いし、店舗をつくりたいこと、開店に向けての進め方など率直にお尋ねしたところ、快く応援の約束をいただき、その場で市場開発課長の今出様を紹介していただきました。

5月11日、今出様はじめ開発課のスタッフのみなさまを講師に招き、新元社スタッフ全員が、書店開設に向けての基本的なレクチャーを受けました。ここから、本格的な開店準備がはじまります。1カ月後の6月14日には、大阪屋様、丸善様に來社いただき、店舗設計の実務会議。おおよその棚の配置を決め、商品は「心理学」「福祉」とも各3000冊の構成とし、専門書と専門雑誌、関係雑貨のみで、一般書は置かないことにしました。

また店内には、談話スペースを設けることにしました。専門家の交流の場として利用していただくのがねらいです。

7月11日、誠信書房の濱地常務様に書店開店の相談を持ちかけました。かねてより「いつか心理学の専門書店を開店したい……」という話を肴に酒を酌み交わしていたからです。濱地様は、即座に「協力するよ!」と応じてくださり、多くのご助言もいただきました。

7月18日、それまで考えあぐねていた店名を「新元社書林」と決めました。それから8月のお盆までの間、出版社へのあいさつ回りに追われましたが、「心理学書販売研究会」会員出版社15社の強力なバックアップが加わり、心配した開店用常備品にも目処がたちま

した。福祉分野のほうも、従来から学会販売でお付き合のあった主要版元各社が常備品の出荷に気持ちよく応じてくださいました。

9月3日、書棚の設営、4日から商品入荷が始まり、7日に棚詰完了。8日(土)

と9日(日)は休養をとり、9月10日(月)午前11時、目出度く開店いたしました。開店までの5カ月間はなかなかの激務でしたが、リアル書店の開店は、そんな疲れも癒してくれるだけの大きな喜びももたらしました。これからは専門

家にご満足いただける店作りを目指して、さらに努力を積み重ねたいと決意しています。

(かとう やすお/新元社 取締役社長)

以下、新元社ホームページURL

<http://www.shingensha.jp/>

新刊ダイジェスト

※価格は総額(税込)表示です。

『さっぽろ おさんぽ日和』 ●すずきもも著

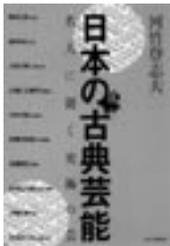


街が碁盤の目状態になっているから、ぶらぶら気ままに歩いても行き止まりがない街、さっぽろ。そんな札幌の街を目的別に歩いてみたら、たくさんの素敵なお店が見つかった。東京生まれ北海道育ちのイラストレーターである著者が、数々の空間を心なごむイラストと手書きのコメントで紹介。公園やカフェ、書店やブックカフェ、映画やアート、わくわくするような雑貨の店など、9つ

のテーマに分かれており、それらのテーマにゆかりのあるコラムも楽しめる。身の回りにある小さなことに目を向け、ささやかだけどゆったりと暮らす幸せ。そんな「ささやか」を体現した人たちが集う場所や店が溢れる札幌がますます面白い街であるようにという著者の願いが伝わってくる。

◆1260円・四六判・127頁・北海道・北海道新聞社・2007/07刊・ISBN978-4-89453-415-5

『日本の古典芸能—名人に聞く究極の芸』 ●河竹登志夫著



狂言師野村万作、能楽師観世榮夫、文楽人形遣い吉田文雀、歌舞伎俳優片岡仁左衛門・中村芝翫、日本舞踊家花柳寿南海、雅楽演奏家東儀俊美、長唄三味線演奏家杵屋巳太郎、胡弓演奏家川瀬白秋、文楽太夫竹本住太夫。

現代の古典芸能を背負う10人の名人から、歌舞伎作者河竹黙阿弥の曾孫で、芸能研究の大御所である著者が、まさに、この著者でしか聞き出せ

なかった珠玉の対談集。芸談と言う堅苦しさはない。三味線の杵屋は、手首を鍛えるために空手の練習やボーリングをしたのに全く影響がなく、ある日突如腱鞘炎になってしまったとエピソードを語る。芸人たちの屈託のない話しぶりが、却って芸の本質を浮かび上がらせてくれて楽しい。

◆2100円・四六判・349頁・神奈川・かまくら春秋社・2007/09刊・ISBN978-4-7740-0371-9

『シマ豆腐紀行—遙かなる(おきなわ豆腐)ロード』 ●宮里千里著



美味しいシマ豆腐、それは「断固として沖縄のシマ豆腐である！」と豪語する著者、宮里千里さん。豆腐ジョーダー(豆腐大好きな人)のひとり。シマ豆腐に恋して(?)、沖縄はもとより、ブラジル、アルゼンチン、インドネシア~中国と南米からアジア、日本全国を追い続けた情熱の紀行。そこで見つけた豆腐の味は、どれも豆腐への深い思いのこもった熱々の味。シマ豆腐と内地の豆腐

との違いは、水分が少なく、型崩れしない、やや塩味のある、濃厚な豆腐。それは製造過程に大きな違いがあるからだ。読者は思わず試食したい気持ちにさせられると同時に、シマ豆腐を通して、沖縄の歴史や移民生活また、アジアの文化も知ることのできる沖縄文化論といえる。

◆1680円・四六判・247頁・沖縄・ボーダーインク・2007/08刊・ISBN978-4-89982-127-4

『自然農・栽培の手引き—いのちの営み、田畑の営み』 ●鏡山悦子著・川口由一監修



「耕さず、肥料・農薬を用いず、草々虫達を敵としない」という「自然農」とはどういうものか、福岡県二丈町で15年にわたり試行錯誤してきた著者が紹介する。まず草を刈って表面の土をうすくはがして畝(うね)をつくり、そこに種子を蒔き、刈っておいた草をかぶせる。生育途中では作物が負けない程度に少し草を刈ってすぐそばに置く。このように、その時々々の作物の生育状態にお

うじて、生態系のバランスをくずさない程度の最小限の手は加える。水稻や麦、雑穀、野菜から果樹まで70種以上の作物について、自然農による栽培法をイラスト入りで詳しくわかりやすく説明する。かくして、草々虫達を敵としない農とはどういうことかが明らかになる。

◆2100円・B5判・218頁・鹿児島・南方新社・2007/10刊・ISBN978-4-86124-124-6

売行良好書

期間：2007年10月16日～11月15日

[出荷センター扱い] ※税込み価格

- (1)『作っておくと、便利なおかず』1260円・ベターホーム出版局
- (2)『どんぐりの図鑑 フィールド版』1050円・トンボ出版
- (3)『たべものかるた あっちゃんあがつく』2100円・リーブル
- (4)『さようならを言うための時間』1680円・木星舎
- (5)『赤鬼エティン』1680円・東京子ども図書館
- (6)『愛と性の尊厳』1050円・アートヴィレッジ
- (7)『だから子どもの本が好き』1680円・成文社
- (8)『東北ふしぎ探訪』2940円・無明舎出版
- (9)『機関車に片思い』3000円・書肆侃侃房
- (10)『おいしい+予算内の病院食レシピと治療食への展開』2625円・瀬谷出版
- (11)『いま、子どもたちがあぶない!』1890円・古今社
- (12)『森を育てる技術』2940円・川辺書林



[書肆アクセス調べ] ※税込み価格

- (1)『北海道いい旅研究室10』690円・海豹舎
- (2)『温泉達人会 Volume 01』735円・海象社(市ヶ谷)
- (3)『シマ豆腐紀行 一遙かなるくおきなわ豆腐ロード』1680円・ボーダーインク
- (4)『よみがえる滝山城 一戦国の風雲を駆けぬけた天下の名城』735円・揺籃社
- (5)『真田三代と信州上田 一疾風六文銭』840円・週刊上田新聞社
- (6)『神保町「書肆アクセス」半畳日記』1680円・無明舎出版
- (7)『石臼のすずめ』108円・クオリ
- (8)『うるま 2007年12月号』780円・三浦クリエティブ
- (9)『沖縄の戦跡と軍事基地 一新版 美ら海・美ら島・命どう宝』1260円・うめだ印刷出版部
- (10)『EASTSIDE 016』1050円・バルクカンパニー

[アクセス仕入れ] ※税込み価格

- (1)『東京の暴れん坊』2100円・右文書院
- (2)『HB02』500円・HB編集部
- (3)『世界屠畜紀行』2310円・解放出版社
- (4)『苔とあるく』1680円・WAVE出版
- (5)『バードハウス』1575円・INAX出版
- (6)『佐藤泰志作品集』3465円・クレイン
- (7)『なまら蝦夷6号-宿主たちの旅案内』800円・のらねこ工房
- (8)『本を売る現場でなにが起きているか?』1575円・雷鳥社
- (9)『Petit Book Recipe-プチブックレシピ リトルマガジンの作り方』1785円・毎日コミュニケーションズ
- (10)『隔月刊 MOOK きのこ 10号』735円・日本キノコ協会

以下ホームページでも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
<http://www.bekkoame.ne.jp/~much/>

トピックス ——— ★★★

▼三省堂に地方小出版コーナー

書肆アクセスは11月17日に閉店いたしました。近頃の三省堂書店神保町本店4Fに地方小出版コーナーを常設していただくことになりました。11月25日オープンで、3千点ほどの規模になります。

▼『現代コリア』終刊

マスコミでの報道もありましたが、朝鮮半島情勢に関する雑誌『現代コリア』(現代コリア研究所発行)が11月上旬476号を刊行し、終刊となりました。1961年に前身誌『朝鮮研究』として創刊してから半世紀、地方・小出版流通センターで取扱いを始めたのが1982年、1984年からは『現代コリア』と誌名を改め、近年では北朝鮮による日本人拉致問題で脚光を浴びたこともありましたが、編集委員の高齢化や財政難でやむを得ずの判断だったようです。476号は「最終号」と銘打たれ、編集発行人の佐藤勝巳氏が巻頭文を書いています。興味のある方はご一読ください。

▼マツノ書店に菊池寛賞

落語家の桂三枝さんや歌舞伎の市川団十郎さん等とともに山口県のマツノ書店さんが第55回菊池寛賞を受賞しました。地方・小出版流通センター設立以来お取扱させていただいているマツノ書店さんですが、受賞理由は「地方の一人古書店でありながら、明治維新史に関する貴重な文献の復刻出版などすでに200点以上を刊行、社会的文化的貢献をおこなっている」というものです。贈呈式は12月7日東京虎ノ門のホテルオークラで行われます。

郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先(郵便番号、住所)、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までFAXかメールでご連絡ください。

◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせていただきます。基本的にメール便は、一冊210円でお送り致します。(メール便の到着は、発送してから3～4日かかります。)お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合わせ下さいませ。

◎なお書籍お買上総計(税抜き価格)が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせていただきます。

★地方・小出版流通センター

FAX: 03-3235-6182

E-mail: access@mx6.mesh.ne.jp

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。



三省堂書店

BOOKS SANSEIDO

神保町本店 4階
地方出版・小出版物フロア

営業時間 10:00 AM～8:00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. <http://www.books-sanseido.co.jp>

営業の
ごあんない

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。

